

介護老人保健施設オアシス21 療養棟

症 例 概 要 利用者氏名：S・H様（女性・90代） 要介護1
病名：第12胸椎圧迫骨折、骨粗鬆症、高血圧症、糖尿病
経過：平成25年1月、自宅で転倒し体動困難にて入院。その後回復期を経て平成25年7月にオアシス21へ入所されたご利用者。
症例概要：入所時は消極的だったものの多職種が関わる生活リハビリ、サービス付き高齢者向け住宅での短期間の生活訓練から自宅復帰が可能となりました。オアシスでの生活や退所後のフォローに大変喜んでいただき、オアシスと自宅をリピート利用になり現在はオアシスに戻られています。S様にとっての『かかりつけ老健』になった症例。

内 容

下肢痛と下肢筋力の低下から歩行に対しては消極的、施設生活は車椅子が中心でした。個別リハビリにて歩行器訓練を実施。短距離ならば自力歩行可能となり、排泄では尿失禁が増えていたため、ご自分でパット交換を行う排泄訓練にて自立。このことで要介護2⇒要介護1へ改善となりました。

自宅退所に向けては物が散乱している自宅（要支援の息子さんとアパートの隣り同士）の環境整備が必要であったことからオアシスのケアマネを中心に玄関や寝室に移動しやすいよう整理整頓を行いました。

「私は何処にも行くところがない。息子は体があんなだし、孫も男だから、家に帰っても足手まといになるだけだから帰れないしょ。」と諦めていましたが、本人と一緒に環境整備や自宅内で歩行訓練を実施したことで決心がつき自宅退所が実現しました。

久しぶりに自宅に帰った際は部屋の椅子に座るまでは時間がかかりましたが、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。

その後の自宅生活では、転倒されSOSの連絡が入ったこともあります訪問介護と連携しオアシスのケアマネも訪問して対応するなど、退所後のフォローも行っています。また、居宅ケアマネへの訪問介護増回などのサービス調整、息子さんへお協力も仰いだこともあり、S様は「息子はすぐ怒っていたが、今は優しくしてくれてありがたい。」と話されるようになりました。

S様はオアシス21を大変気に入ってくれたこと、継続的なリハビリも必要なことからオアシス21と自宅のリピート利用となり、12/27にオアシス21に戻られています。その時の表情も、自宅に戻られた時と同じように、とてもうれしそうな表情をされていました。

オアシス入所時は色々なことに消極的だったS様ですが、看護、介護、ケアマネ、セラピスト、栄養士など多職種がかかわった生活リハビリと自宅復帰のサポートをしてきたことで、笑顔で自宅に戻ることができ、そしてオアシスを気に入ってくれ、笑顔でオアシスに戻られています。

これらの成果は日々の職員の関わり、退去された後のフォローが出来ていたことでF様にとっては『かかりつけ老健』になれたと思い、キラキラ介護賞に推薦いたします。